

# 年暮れぬわが墓欲しき早雲寺

藤田湘子

湘子は生前の希望通り早雲寺に眠っている。この寺に自分の墓が欲しいと、生きている時に思うこと自体、湘子流の美学を感じるが、それを実行してしまうところは流石である。

遠い昔、お別れの会の翌日に早雲寺に墓参したことがある。箱根湯本の橋を渡って坂道を登り、民家や保育園の家並を抜けてたどり着いたそこは、静かな寺であった。宗祇の墓があり、湘子はその点も気に入って購入したと読んだ事がある。

先生の墓標の前に佇つと、真つ青な子蝋螂が鎌を振り上げていた。先生は本当にこの世からいなくなつてしまったのだと思ひ知らされ号泣した。

1987年 (SG2作) 第九句集『前夜』 鑑賞・野本京